

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3148036号
(U3148036)

(45) 発行日 平成21年1月29日 (2009. 1. 29)

(24) 登録日 平成21年1月7日 (2009. 1. 7)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 25/34 (2006. 01)

B 6 5 D 25/34 A

B 0 5 B 11/00 (2006. 01)

B 0 5 B 11/00 1 O 2 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号	実願2008-7960 (U2008-7960)	(73) 実用新案権者	000111605
(22) 出願日	平成20年11月13日 (2008. 11. 13)		ハマナカ株式会社
			京都府京都市右京区花園藪ノ下町2番地の3
		(74) 代理人	100066496
			弁理士 宮本 泰一
		(72) 考案者	濱中 貞宏
			京都市右京区花園藪ノ下町2番地の3 ハマナカ株式会社内

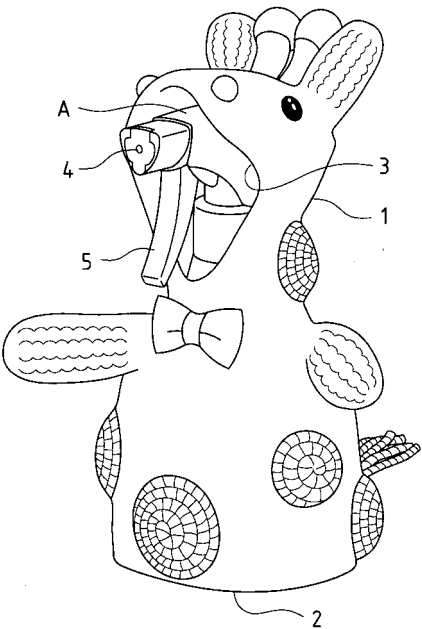
(54) 【考案の名称】 噴霧器用カバー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 噴霧器本体への被装が簡単であり、かつ不使用時には噴霧器本体に被装したままで室内装飾としても使用できる噴霧器用カバーを提供する。

【解決手段】 噴霧用スプレー容器を被覆する噴霧器用カバーであって、稍太の毛糸を用いて編成した編地により底部に開口を残して胴部及び頭部よりなるカバー本体1を動物形状を模して作成し、底部開口2を払げて容器本体に上から被せることを可能ならしめると共に、頭部に開口部3を形成し噴霧部4と操作ハンドル5を該開口部より露出せしめ得る如くしたことを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

噴霧用スプレー容器を被覆する噴霧器用カバーであって、稍太の毛糸を用いて編成した編地により底部に開口を残して胴部及び頭部よりなるカバー本体を動物形状を模して作成し、底部開口を拡げて容器本体に上から被せることを可能ならしめると共に、頭部に開口部を形成し噴霧部と操作ハンドルを該開口部より露出せしめ得る如くしたことを特徴とする噴霧器用カバー。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は噴霧器用スプレー容器を被覆する噴霧器用カバーに係り、詳しくはスプレー容器に容易に取り替え使用可能であると共に、不使用時には置物として室内装飾に使用可能な編地による噴霧器用カバーに関するものである。

【背景技術】

【0002】

ボトルカバーあるいは噴霧器用カバーとして従来、ボトルに合わせて種々の形状のものが作成され使用されているが、近時、単にカバーに止まらず、室内装飾を兼用させた消臭剤噴霧用カバーが提案され、市販に供されている。（例えば特許文献1参照）

この噴霧用カバーは動物に模した形状のカバーであって、スライドファスナー付き胴部本体と該胴部本体の頂部を被冠すべく縫製されたフード型頭部を備え、フード型頭部を傾けた状態で前面のスライドファスナーを下げることでスプレー容器が胴部本体内に収納可能となり、ファスナーを閉めた後、前記フード型頭部をスプレー容器の頂部に被装されることにより、フード型頭部の口側からスプレー容器の噴霧部と操作ハンドルとを露出させて使用するように構成されている。

【特許文献1】意匠登録第1319578号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、上記提案による噴霧容器カバーは噴霧器本体に被装するに際し、頭部を傾けた状態で前面のスライドファスナーを下げ、スプレー容器を胴部本体内に収納した後、再びファスナーを閉め、フード型頭部をスプレー容器の頂部に被装させるという手間を要すると共に、全体が動物を模した形状であるとしても、単に噴霧器用カバーとして使用されているにすぎない。

【0004】

そこで、本考案は上記実状に鑑み、構造素材として編物の使用を試みることにより噴霧器本体への被装を簡単ならしめると共に、多彩な変化を加え、不使用時にも室内装飾用置物として充分、使用可能ならしめることを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

即ち、本考案噴霧器用カバーの特徴は、稍太の毛糸を用いて編成した編地により底部に開口を残して胴部及び頭部よりなるカバー本体を動物形状を模して作成し、底部開口を拡げて容器本体に上から被せることを可能ならしめると共に、頭部に開口部を形成し噴霧部と操作ハンドルを該開口部より露出せしめ得る如くした構成にある。

【考案の効果】

【0006】

上記本考案噴霧器用カバーはカバー本体が稍太の毛糸により編成された編地で形成されているから、編地の伸縮性を利用して底部開口を拡げることにより、噴霧器本体に対し上部より被せるだけで簡単に被装することができるので取り替え使用が容易であり、しかも頭部も胴部と一体となっているので胴部も頭部も一挙に被装されると同時に噴霧部及び操作ハンドルもカバー本体に被装しただけで頭部に形成された開口部よりそのまま露出し噴

10

20

30

40

50

霧を行なえるので頗る実用的である。

【0007】

殊にカバー全体が編地により作成されているため、種々の柄、模様、飾りを付して美観を整えることが容易であり、噴霧器不使用時でも噴霧器を収納したまま室内の装飾用置物として充分、使用することができる効果がある。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、更に添付図面を参照し、本考案の具体的形態について説明する。図1は本考案に係る噴霧器用カバーの1例を示す使用状態斜視図であり、図2はその縦断面図である。これら図において、1は胴部と頭部を一体に有する噴霧器用カバー本体であり、動物を模した外觀形状によって形成されている。

10

【0009】

そして上記カバー本体1は稍太の毛糸を用いて編成された編地により形成されており、編地特有の伸縮性を有している。ここで動物としては首をもつものが好ましく、キリン、カンガルー、鳥などが用いられる。

【0010】

編地による上記本考案のカバーは、稍太の毛糸を用いて胴部、頭部からなる動物を模した外觀形状に一連に連続編成してもよく、また予め編成された編地を上記形状に作成しても良いが、胴部、頭部を連続して一体に編成するのが通常である。そして、編地による上記カバー本体の作成に際しては、図2に示す如く底面は開口2として残すと共に、頭部前面に噴霧器本体Aの噴霧部4及び操作ハンドル5を露出し得る開口3を形成せしめている。なお、カバー本体1を形成する上記動物を模した外觀形状は、上記の如く種々の動物形状を利用することが出来、多様な外觀を形成することができるが、なかでも編地により作成することと、底部に開口2を、また、頭部に噴霧部4及び操作ハンドル5を露出する開口部3を設けることは本考案において必須である。

20

【0011】

しかして、上記本考案カバーを噴霧器本体Aに被装するにあたっては、底部の開口2を、編地の伸縮性を利用して拡大して噴霧器本体Aの上方より被せることにより容易に被装することができ、同時に頭部の開口部3より噴霧器本体Aの噴霧部4及び操作ハンドル5を露出せしめて、使用に供することができる。なお、噴霧器本体を使用しないときは、カバーを被装したまま、置物として随時、使用できるようにカバー本体の編地には種々の柄模様を付与し、あるいは別途、種々の飾り等を付着せしめて美観を固めるようにすることが好適である。

30

【0012】

本考案カバーは以上のように編地にて胴部、頭部を有する動物形状に作成し、底部の開口を拡げて噴霧器本体に上からかぶせるだけで被装せしめるようにしたものであると共に、噴霧部及び操作ハンドルは頭部前面の開口より露出せしめて噴霧を可能とするので、被装が簡単で手間がかからず、随時、取り替えが容易であるのみならず、室内装飾にも効用があり極めて実用的である。

【図面の簡単な説明】

40

【0013】

【図1】本考案に係る噴霧器用カバーの使用状態斜視概要図である。

【図2】上記カバーの縦断面図である。

【符号の説明】

【0014】

A：噴霧器本体

1：カバー本体

2：底部開口

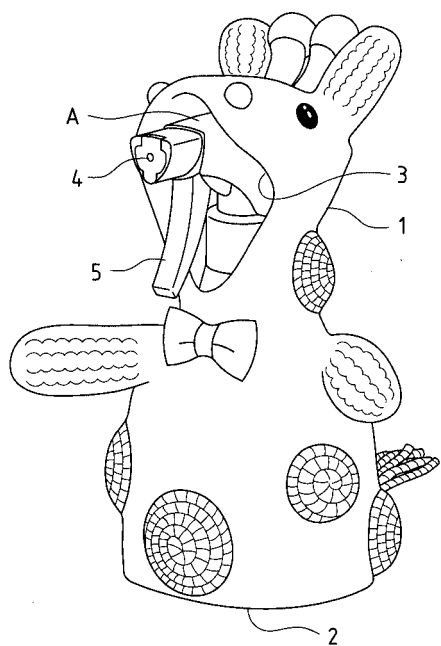
3：頭部開口部

4：噴霧部

50

5：操作ハンドル

【図 1】



【図 2】

